

この度は「日本特別ニーズ教育学会奨励賞」の栄誉を賜り、ありがとうございました。まずは代表理事の加瀬進先生と選考委員長の黒田学先生に心より感謝申し上げます。

本研究では、スコットランドの初等学校での参与観察をもとに、「いかに子どもたちの教育的ニーズに通常学校で応答しているのか」という問いにこたえることをめざしました。詳しい内容は論文を読んでもらいたくというのが正直なところですが、社会経済的背景が対照的な2校を選定し、「差異化」をキーワードにその実践の記述を試みました。「それが実現されているかどうかは読者の判断を仰ぐほかない」というのはある種の常套句ですが、今回の奨励賞受賞はそうした試みが一定成功できているということを表して頂けたのではないかと恐縮ながら思っております。

さて、スコットランドは、イングランドとは異なりこれまでほとんど注目を集めてこなかった地域ということもあり、スコットランド研究をはじめた時には、まさに暗中模索状態でした。よく言えば何を調べても新発見ですが、ともすれば私の研究がスコットランドのインクルーシブ教育の印象を決めてしまうのではないかという、ある種の恐怖もおぼえながら研究を進めてきました。今回の受賞を通して、一人でも多くの方がスコットランドに注目し、あわよくば研究関心をお寄せいただき、議論をさせていただければ嬉しく存じます。

では、なぜ私がスコットランドに興味を持ったのか。それは卒業論文執筆を考えているときに、野口晃菜さん（株式会社 LITALICO）からスコットランドの教員養成課程に関する報告書の存在を教えていただいたからでした。さらに、大学院で指導教員になっていただいた大阪大学の志水宏吉先生がスコットランドでの調査経験をお持ちで、「行ってきたら？」と背中をポンとくださったことから引き続き研究を進めることになりました。そのうえ、海外調査では現地のカウンターパートの存在が重要であるというお言葉を大阪大学の園山大祐先生から伺っていたことから、現地の研究者に色々と連絡を試みたところ、なんと日本で学位を取られたという Divya Jindal-Snape 教授（University of Dundee）にたどり着きました。Divya 先生には博士前期課程から現在に至るまでお世話になり、在外研究の受け入れ、調査校の紹介などをいただきました。先生の存在なくして今回の論文、そして私の研究は成立していないと言っても過言ではありません。また Divya 先生と同時期に院生であったという熊本大学の古田弘子先生を紹介いただきました。古田先生には他大学の院生であるのにも関わらず何度も論文にお目通しを頂いたり、報告の機会を頂いたりしました。私をスコットランドに導いてくださった方々に御礼申し上げます。

最後になりますが、本論文の投稿過程でお世話になりました査読者の先生、編集幹事の田部絢子先生にも御礼申し上げます。今回の受賞研究の成果が特別ニーズ教育の領域で少しでもお役に立てることを願って受賞のご挨拶とさせていただきます。